

この本堂は、17世紀中頃1747年に火災で全焼したが、毛利氏第六代藩主よって1750年に再建された。本堂は大照院の中心的建物で、仏教各種行事が行われている。本堂の最も崇高な彫像は、慈悲の観音菩薩で、1200年前のものである。最大のものは釈迦牟尼像で、毛利氏一族の男女が祖先を祀る対象であると同時に、大照院住職26人の精神も祀られている。他には270年前の襖の間があり、15世紀の雪舟派の襖絵が残っている。